

2011年 9月～11月の日程

山の本講座 9月10日(土) 14時～16時 山の図書館 参加費:500円	バスハイク 9月21日(水) 冠山(俵山(阿蘇外輪)) 集合 8時 天神・日銀横
山のコース 9月27日(土) 14時～16時 山の図書館 参加費:200円	山の本講座 10月1日(土) 14時～16時 山の図書館 参加費:500円
バスハイク 10月19日(水) 普賢岳、国見岳(雲仙) 集合 8時 天神・日銀横	山のコース 10月25日(火) 14時～16時 山の図書館 参加費:200円
バスハイク 11月2～4日(水～金) 東赤石岳、笹ヶ峰(四国) 集合 2日8時 天神・日銀横	山の本講座 11月5日(土) 14時～16時 山の図書館 参加費:500円
バスハイク 11月16日(水) 比叡山(宮崎) 縦走 集合 7時30分 天神・日銀横	山のコース 11月22日(火) 14時～16時 山の図書館 参加費:200円
山の図書館のつどい 11月20日(日) 13時～17時 太宰府館 参加費:2000円 ※表紙参照ください	

会員募集中(常時) 山の図書館の維持・発展のため趣旨に賛同される会員を募集しています。友人・知人の方にご紹介ください。

新年度更新のお願い

4月から2011年度に入りました。今年度も会費を納入し、更新をお願いします。

山の図書館ニュースの送付

このニュースは季刊で発行しています。また経費節減のためにインターネット「山の図書館」ホームページを利用いただける方「HPを利用するので送付不要」のご連絡ください。

スタッフ・仲間募集 山の図書館の活動に共に取り組む方を求めています。空いた時間を利用して活動できる方も歓迎。

「山の図書館」に、車で来館の皆さまへ
 山の図書館前の駐車場は「山公(蕎麦屋)専用駐車場」です。車で来館される場合は事前にご相談ください。



九州登山情報センター
 太宰府市内山708番地
 〒818-0115
 TEL・FAX 092(928)2729

愛称 “山の図書館”

・開館 11時～16時 ・休館 水、木曜

E-mail: yamano_tosyokan@yahoo.co.jp
 ホームページ http://loghouse.mydns.jp/

郵便振替 01780-8-78365
 加入者名 山の図書館

編集後記

☆イヴォン・ショイナードの岩場を傷つけないプロテクション、ダブルアックスによるアイスクライミング、革新的な技術開発はクリーンクライミングの概念を生んだ。
 ☆画家吉田博のことは、当ニュースでもたびたび紹介してきた。なにしろ福岡はその情報発信の拠点の資格がある。安永幸一氏は再評価運動の推進者。
 ☆宝満山には、若者があふれる光景が日常化している。全国の山でも同じ。彼らは「初心者です」と、とても謙虚なところが特徴で好ましい。私たちは、そんな若者たちに、良質の情報を伝えよう。
 ☆日本の登山、全てに活況が出てきた? (S)

山の図書館 ニュース

2011年8月20日
 九州登山情報センター

第38号



針ノ木岳を望む(爺ヶ岳 種池山荘前)

目次 ページ

九州の登山史年表/バハルフェスタ	2
松本先生を偲ぶ会	3
オーストラリア自転車旅行	3
描かれた山と自然	4
東北太平洋沖地震水準点移動	5
祖母山群・親父岳B29	5
バンフ映画祭in Japan他	6
山の図書館 掲示板 山の図書館日記	7
日程表、事務局	8

山の図書館のつどい 映画鑑賞と懇親会

日時: 11月20日(日) 開場: 13時
 会場: 太宰府館 まほろばホール
 太宰府市宰府3-2-3
 電話 092-918-8700

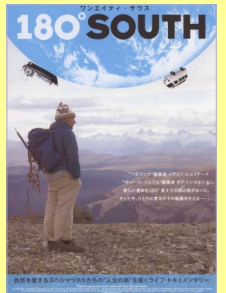
・13時30分～14時40分
 映画鑑賞“180° SOUTH”

・15時～16時30分 懇親会

参加費: 2,000円
 (映画鑑賞のみ 500円)

映画&懇親会、どなたも参加できます。大勢ご参加下さい。
 ※会場は西鉄太宰府駅から徒歩2分。公共交通機関をご利用ください。

クリーンクライミングの泰斗、20世紀の名クライマー “ショイナード” 等が衝撃を受けた南米・パタゴニアの山と自然!! 静かに流れる時間のなかで彼らが語る...



ワンエィティ サウス

映画 “180° SOUTH”

イヴォン・シュイナードとダグ・トンプキンスは、登山に新しい風を吹き込んだクライマー。またPATAGONIA、THE NORTHFACEの創業者でもある。1968年、二人は未知の世界を求め、南米パタゴニアへ。「人生が変わった」という、40年前の旅は16ミリフィルムにとどめられ、現代の若者の心を突き動かす。サーフィンと登山を愛する若者が「イヴォンらの道をたどる」と追体験の旅でパタゴニアを目指す。

時折、挿入される現在のイヴォンやダグのインタビュー。そこには衰えることのない、自然や冒険に対する思いが語られる。もちろん、40年前のクライミングシーンも織り交ぜられて必見。

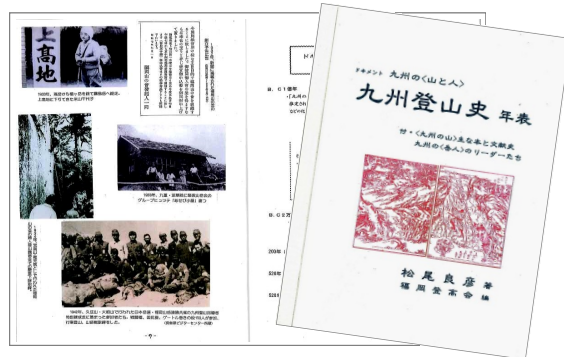
ドキュメント 九州の〈山と人〉 九州登山史年表 松尾良彦 著

渾身の調査 1800項目

先に九州の登山史について、「九州の登山史 山と人百話」(2007年)など幾つかの著書を発表しておられる松尾良彦氏が、「九州登山史年表」(私家版)を改めて製作された。長年続けてこられた、調査、情報収集の集大成ともいえるもので、収載項目は1800及ぶ。

“九州”というのは九州在住もしくは出身の登山者の活動であり、また九州の山を舞台にした登山を対象にしている。前者では国内外における登山、例えば1977年、日本山岳協会K2登山隊(隊長、副隊長、隊員が参加)など。後者では、宮崎・比叡山におけるクライミングの最近の記録などが含まれる。言い換えれば“九州から見た登山史”であり、視野は世界の山岳に及ぶ内容になっている。

登山が一部の限られた人たちのものと言われた時代から、多くの人に親しまれる“登山の



大衆化”の足取りを記す記録となっている。それを支えた九州の登山風土とは…。これらの情報源を確認のため、九州各地の図書館、資料館を訪ね歩くことが続いたという。

この年表には、たくさんの人が登山の発展に膨大な情熱を注いだ事実がある。それを読み取りながら、登山の楽しみを育てたい。

付 〈九州の山〉主な本と文献史
九州の〈岳人〉のリーダーたち
B5版 185頁
福岡登高会・編

第一回 バハル・フェスタin 九重 報告 岩崎元郎 (原文)



「バハル・フェスタ」、その第一回が4月29日(金、祝)、法華院温泉山荘を会場として開催された。

「バハルって?」、どんな意味か尋ねると、ネパール語(サンスクリット語)で「山」、ヒマラヤの高く険しい「岳」に対し、「たおやかな山」を意味するとのこと。ともあれこの催しが、なにか新しいイメージで開催にこぎ着けられたのは、「バハル」というお洒落なネーミングに負うところが大きい。山のトイレや自然環境、増え続ける山岳遭難事故など、大切な山のことをみんなで考えようという呼びかけに、百人近い方が応えてくれた。

16時、東日本大震災で亡くなられた方々と、この3月他界された「坊がつる賛歌」の作詞者、松本僊夫さんに黙祷を捧げてから、バハル・フェスタの幕を開けた。司会進行は実行委員長の渡部秀樹さん。

第1部は、「岩崎元郎と山のトイレ・環境を考えるフリートーク」。携帯トイレやマイナーなエリアのトイレの設置や維持管理の問題など、貴重な意見を頂いたが岩崎の不慣れと時間不足で意見を集約し切れなかった。次回に持ち越しのテーマになった。

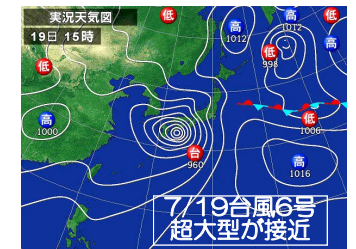
第2部は、「映画『遭難・谷川岳の記録』上映と、「安心安全登山」を考える」。1958年岩波映画社の長編記録映画で、いまの若い登山者に一度見て貰いたい貴重な映画である。この映画を映写できただけでも、バハル・フェスタ開催の甲斐はあったと思う。

第3部は「九重の今音を語り、山の歌を楽しむ」。「坊がつる賛歌」のもう一人の作詞者、梅木秀徳さんに「坊がつる賛歌」を作詞した頃のエピソードを語って頂いた。そして「あそB e隊」登場。代表の薄井良文さんは阿蘇の山岳救助隊の隊長さんでもある。法華院温泉山荘の食堂は、歌声喫茶に早変わり。楽しく盛り上がり、最後にみんなで「坊がつる賛歌」を大合唱して、21時30分お開きになった。

※原文から一部割愛しました。ご了承ください。

山の図書館 掲示板

レインボーバスハイク
7月16日～20日
爺ヶ岳(長野)
8名参加



台風6号の接近が報じられる中で、計画の縮小を余儀なくされた。扇沢登山口から柏原新道は、前半が概ね急で、林の中のジグザグ登り。谷を隔てた沢に豊富な残雪がある。

高木林を抜けると石畳の山腹を行く道となり、イワカガミなどを見る。雪溪の残る谷を横切り崩壊した斜面を過ぎて、最後の急な登り。残りのシャクナゲを見る。その先で一気に眺望が開け、稜線上の種池山荘へ。コバケイソウ群落が開花、彼方に針ノ木岳を望む。

爺ヶ岳山頂

休憩の後、ガスが激しく流れる尾根を忠実に爺ヶ岳南峰へ。広い頂上で、折よくガスが切れ、西に立山、剋岳が全容を現した。豊富な

残雪を纏う姿は、気高いばかり。明らかに例年より雪は多い。一方、当初予定の鹿島槍ヶ岳は、雲の切れ間に南、北の双耳峰を望む。小さく見える冷池山荘と山頂の景観は大迫力。

雲が濃くならない内にと一旦下り中峰へ。こちらは10人が立つほどの山頂。北峰を割愛して種池山荘に戻る。南峰のトラバース付近で数片のコマクサを見た。

種池山荘は、早めに下山する人もあり宿泊者で、混雑することもなかった。翌朝、5時に朝食を済ませて下山にかかる。幸い雨脚は弱く、樹林帯で雨具も取った。

帰路、大阪からのフェリーは欠航。北上する台風をにらみ、九州へと陸路をひた走る。

山の図書館の交流

☆7月某日 宝満山から下山してこれたご夫婦連れ、千葉から来られたとのこと。さらに「山の図書館」を訪ねてきた、といわれる。何かのニュースで山の図書館を知り、ホームページをご覧になって九州行を計画された。もうひとつ、翌日は大分・長湯の「林の中の小さな図書館」を訪ねるのが目的とか。日本山書の会のA氏だった。

☆6月某日 山のトイレ協議会総会の日、早目に自宅を出られて午前中に「山の図書館」着。「以前から一度は…」と思っていたとのこと。お話をするうち、祖母山の二段彩色の地図を見せていただいた。大分のG氏。地図の造詣深く、あっという間に時間が過ぎた。今年九重の自然保護活動で環境省表彰を受賞。写真は教示受けた地図の「ミウラ折り」。



新着本 こんな本が届きました

寄贈者	書名	著者	発行年
梅崎京子 右表の他	山岳遭難の教訓		
	山岳遭難の死角		
	自然の博物誌 山		
	七十歳はまだ青春		
	登山と民主主義		
	アルプスは再び征服された		
	ザイルの二人 満則・秋子の青春登攀記		
	登山不適格者		
松尾良彦 右表の他	東西登山史考		
	誰でも行ける世界の秘境		
	パタゴニア自然紀行		
	ヒマラヤの賦		
	七大陸最高峰に立って		
	希望のアルピニズム		
	第7級 極限の登攀		
	クリーン・クライミング入門		
	山の民俗		

※敬称略

今年も来る 福岡会場 11月20日(日)
バンフ映画祭 主催: patagonia

毎年秋に開催されている、バンフ・マウンテン・フィルム・フェスティバルは、世界で最も優れた国際的なアウトドア映画祭といわれる。250点以上の参加作品から厳選の10篇が日本各地で上映される。(写真は案内パンフ)

今年は全国9会場で開催され、仙台会場では、東日本大震災支援として、無料で整理券が配布される。

福岡会場: イムズホール(福岡市天神1-7-11

イムズ 9階)
Tel: 092-733-2002
http://www.ims.co.jp/
日時: 11月20日(日)
13時・17時

The World's Best
Mountain Films
http://www.bumff.jp/



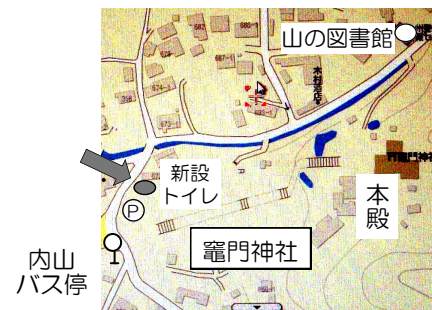
宝満山
竈門神社
駐車場に
トイレ新設



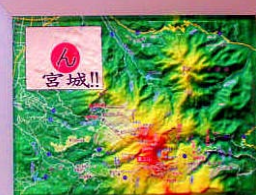
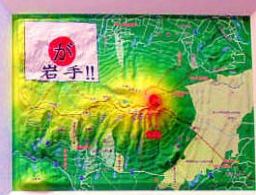
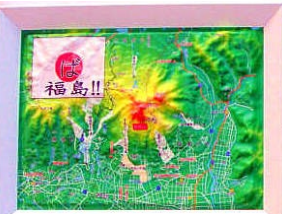
宝満山の登山口、竈門神社の駐車場にトイレが新設された。従来の施設は旧式で不評だったため廃止され、正面鳥居下の駐車場西側奥に新設された。(写真)

参拝者、登山者の多くの人々が利用する同駐車場利用者にも、バス利用者にも利便性が増した。設備は現代の様式で統一され、外観も和風の瓦ぶきで景観の配慮もされている。

なお、竈門神社では社務所などの改修が進められており、当分の間は、境内の通行に際して特段の規制はないが、同工事に伴う制約があるので、十分に注意して通行、参詣したい。



ば 福島 磐梯山
れ 茨城 筑波山



が 岩手 岩手山
ん 宮城 蔵王

東北の山
立体地図(レリーフ)
東日本大震災支援バリエーション

レリーフ製作者・松本氏が東北4県の代表的な山をテーマに立体地図(レリーフ)を作成し、山の図書館に寄贈いただいた。

が 磐梯山(福島)
・蔵王(宮城)
・筑波山(茨城)
・岩手山(岩手)

現在、山の図書館内で展示中。

東北の山
立体地図(レリーフ)
東日本大震災支援バリエーション

松本恒夫先生を偲ぶ会
が催されました
7月23日(土)



今年、三月末に急逝された松本恒夫先生(写真)を偲ぶ会が執り行われました。

会場の福岡国際ホールには、山、探検、地学その他のいろいろの分野からたくさんの方々が集集、さしもの広い会場を埋めつくすほど。

過去、この会場で催されたいろいろな集会では、いつも松本先生の姿があり、その主人公

を失ったということが信じられないようで、その存在の大きさを今さらながら実感。

松本先生の思い出話が披露されるにつけ、夢とロマンを追い続けた人生と改めて偲ばれた。梅本秀徳氏は学生時代からの交友を語り、坊ヶツル賛歌誕生の場面を紹介。

山の図書館の顧問としてご尽力いただいたことを忘れられません。そしてとうとうこの日が来たと実感しました。会場でたくさんの方々にお会いしたことも松本先生のお引き合わせでしょう。

山の図書館では、松本先生の全著書13部を会場に展示して、皆さまにご覧いただき業績の一端を垣間見ていただきました。(写真 左)



オーストラリア大陸 逆S字の
自転車旅行&タスマニア



日本出国 2008/7~帰国 2010/7
・総走行距離 23,400km
・パンク回数 100回以上
・交換タイヤ 約13本

・「大陸一周」ではなく「逆S字」ルートを走ったことで、より多くの困難と美しい風景を見たと思う。腹一杯の『地平線の旅』だった。

一年間の自転車旅行をした足立直己君(単独)が、その写真1500枚のアルバム5冊にして「山の図書館」に届けてくれました。左が概略図。

オーストラリア大陸の東・西・南・北端に立ったそうです。また有名なイアズロックよりも大きな一枚岩の一枚岩の山、世界一の一枚岩の山、その写真1500枚の行程は厳しく、偶然通りかかった車に出会わなかったら...とか。

大半が砂漠の光景といえますが、宝満山の帰り、「山の図書館」でアルバムを見てください。

山岳雑誌から

『岳人』8月号 (No.770)
特集・描かれた山と自然

この特集には、谷文晁、吉田博、高島北海の3名の画家を紹介。谷文晁を三宅修、吉田博を安永幸一、高島北海を大森久雄氏が執筆。いずれも先駆的な業績と評価されて、恰好の解説。作品の所蔵美術館紹介があるのも貴重。

掲載書はいずれも「山の図書館」に所蔵しています。特に、吉田博画伯については、研究資料、画集をそろえています、ご利用下さい。

1. 生涯が山とともにあった吉田博の山岳風景画

安永幸一氏(福岡アジア美術館顧問)

吉田博は福岡出身(久留米生まれ)、水彩画から出発し、油絵、版画へと広がる。山岳風景ばかりではなく、登山光景を多く描き、登山者の視線が濃い。

「清明」な画風は、欧米で高い評価を受ける。日本国内以外にも、米、欧、インドの山の作品も多い。毎年二ヶ月は北アルプスなどの山に登り、絵を描いたといわれ、同行したのは上条嘉門次、小林喜作などの名案内人で山行領域は広い。

1896年(明29)、20歳で丸山晚霞と信州、奥飛騨を跋涉する写生旅行は、風景画家、山岳人吉田博の原点といわれる。(右図参照) 1936年、中村清太郎、丸山晚霞らと日本山岳画協会を立上げる。

福岡市美術館
福岡市中央区大濠公園
Tel.092-714-6051
木版全242点を所蔵

2. 山岳画の偉大なパイオニア 高島北海 …大森久雄

作品集『欧州山水奇勝』1893年
その他、作品所蔵 下関美術館

3. 江戸時代の名所案内 谷文晁

『日本名山圖會』の謎を追いかけて …三宅修
※17世紀以降の東西の山水・風景画をテーマ

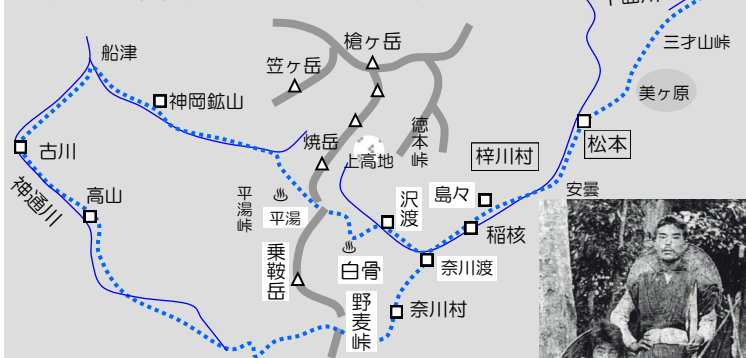


高山の美を語る
吉田博/著
昭和6年
実業之日本社

山の絵本
吉田博/絵・版画
白旗史朗/写真・文
1981年 講談社

山と水の画家 吉田博
安永幸一/著
2009年 弦書房

1896年、吉田博と丸山晚霞の二ヶ月間にわたる写生旅行の行程概要…同書の記述から作図



下関美術館
下関市長府
Tel. 083-245-4131

静岡県立美術館 ※
静岡市駿河区谷田
Tel.054-263-5755



写生旅行中の博(左)と晚霞

日本山岳画協会75周年記念事業

丸山晚霞記念館 7月31日～9月4日
☆「山岳に焦がれた男たち」展…丸山晚霞、吉田博、小島烏水他の絵画等展示

☆丸山晚霞、吉田博の青春の旅路をたどる
スケッチツアー 9月1日～2日
梅野記念絵画館 〒389-0406
東御市八重原935-1 Tel.0268-61-6161
…『山と溪谷』8月号(No.916)から

東北地方太平洋沖地震 地盤移動に伴い水準点移動 GPSで再測定

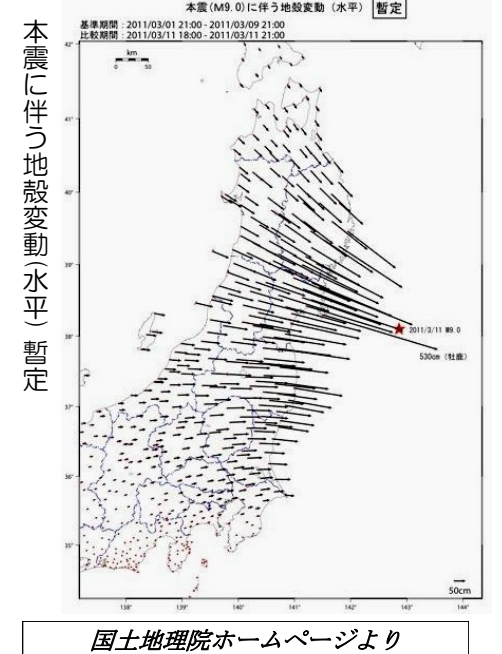
3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震(M9.0)では、最大で水平方向に約5.3m、上下方向に約1.2mという極めて大きな地殻変動が観測されました。これは、電子基準点データを回収して判明したものです。(5月)

東日本、関東の水準点45,000ヶ所が移動した。国土地理院では電子基準点の算定終了後に、三角点、水準点の計算を行う予定。成果公開は10月以降の見込みという。

「水準原点」も…

あらゆる標高の基準となる「水準原点」が20~30cm移動、また沈下の可能性もあり、復旧測量が行われる。

水準原点標庫(東京・千代田区)



国土地理院ホームページより

祖母山系
親父岳

B29 墜落 米兵遺族から手紙
高千穂住民の慰霊に感謝

終戦直後の1945(昭和20)年8月30日、宮崎県高千穂町の山中に墜落した米軍機に乗務し、死亡した搭乗員アルフレッド・エイケンさん=当時(23)=の米国在住のめいから、事故の犠牲者を慰霊する地元住民のグループ「五ヶ所(ごかしょ)平和祈念碑奉賛会」(甲斐秀国会長)に手紙が届いた。「日本で平和を願う活動が続いていることを知り、心が温まった」と感謝する内容。悲劇から66年。平和を願う気持ちが海を越えて遺族に伝わった。

奉賛会によると、エイケンさんら米兵12人が乗ったB29爆撃機は北マリアナ諸島・テナアン島から福岡県宮若市の捕虜収容所に食料投下のため向かう途中、宮崎・大分県境付近の親父山(1644m)に墜落。機体は大破し、全員死亡した。遺体は米軍が収容、捜索には住民も加わった。

その後、事故の記憶は薄れかけていたが、町出身の県職員工藤寛さん(57)=宮崎市=が5年がかりで調査、現場に機体の残骸があるのを知った。「悲劇を風化させてはならない。平和の尊さを語り継ごう」と、有志と寄付を募り、95年に平和祈念碑を建てた。

近くで日本軍の戦闘機も第2次大戦中に墜

落、操縦士が死亡しており、碑は二つの事故現場の中間にある高台に立つ。工藤さんは米軍に12人の身元を照会したが、遺族と連絡が取れたのは3人だけだった。97年を最後に新たな情報はなく、交流も途切れかけていた。

手紙の差出人は、エイケンさんのめいのドナ・ボイドさん=米国ミズーリ州在住。エイケンさんのことをインターネットで調べていたところ、工藤さんのレポートの英訳版を見つけたという。手紙には「平和のためにぜひ役立ててほしい」と、エイケンさんの写真が添えてあった。

写真は、B29の残骸などともに町歴史民俗資料館に展示されている。奉賛会は今年も慰霊祭を8月27日に計画する。

搭乗員4人目の遺族と連絡が取れ、同館学芸員で奉賛会会員の緒方俊輔さん(47)は「インターネットで遺族と高千穂の情報がつながった。残る8人も分かるかもしれない」。工藤さんは「もう情報は出ないと思っていたのでうれしい。いつか全員の遺族を招きたい」と話した。

=2011/06/21付 西日本新聞夕刊=



親父岳直下に立つ銘板